



さいたま市介護支援専門員協会  
ロゴマーク

# STARTERS

Vol.49

2018年春号

## 平成29年度 第4回全体研修会

テーマ 「2018年介護保険改正と2035年の高齢者介護システム」  
～今後のケアマネジメントの在り方～

講師 東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科  
准教授 高野龍昭氏

開催日時 平成30年3月23日(土) 14時00分～16時00分

開催場所 浦和ふれあい館 第1会議室

本年度最後の全体研修会は、2018年度の介護保険制度改正に向け、東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科 高野龍昭氏より、改正内容と今回の改正が今後2035年までに何を意味するのかを学ぶ研修となった。

### ① 「地域包括ケアシステム」

膨らみすぎた介護、医療費をどのように抑制していくかが問題のため、医療(病院)から介護(施設や在宅)に移行し、今後は看取りを制度的に介護サービスで行い、高齢者が亡くなる

場が介護サービスになっていく。そのため「在宅や介護サービスの場で亡くなることも含めて地域包括ケアシステム」と話された。

また、高野氏の地域ケア会議の事例で、「8050問題」について、例えば80歳の両親と50歳になる障害のある息子がいる世帯で、ケアマネジャーや地域包括支援センターは80歳の両親の支援はできるが、50歳の障害の息子の支援はできない。しかし今後はそのようなケースも対応できるように複合的に包括的に支援していくよう、システムを作っていくなくてはなら



ない」と述べられた。

②「2025年問題、2040年問題」

後期高齢者の人口が急激に加速するのが2025年問題。それよりもっと深刻なのが、2040年問題。後期高齢者の人口が2025年まで急激に増えた後、2040年まで横ばいとなるが、働き手の人口は減少していく。そうなる介護の常識が変わる。

例えば、認知症がありBPSDで徘徊がある。徘徊を抑えることは難しく、対応としては介護者が徘徊に付き合ひ、自宅周辺など一緒に一周すると落ち着くこともあるため、現在ではこれが良い介護方法となっている。しかし、2040

年の後期高齢者の人口と働き手の人口を比較するとこの介護が難しくなる。認知症の方が増え、支え手は減少し、目の前の介護ばかりに時間を使えなくなる。「表現は悪いが、コミュニケーションはペッパージョにやってもらおう」会場の皆さんは苦笑い。今回の改定ではほとんど触れられていないが、今後は介護ロボットを導入やICT化が必要になってくる。介護の常識を変えていかなければならないと話された。

③「地域包括ケア強化法」

現在の病院のベッド数は急性期の病床数が多く回復期の病床数が破滅的に足りない。2025年に向け後期高齢者が増加するにあたり回復期のベッド数が必要となる。急性期の病床数を減らし、回復期の病床数を増やす必要があるが、それでも病院で支え切ることが困難で、介護施設や在宅医療等に転換していく地域医療構想が推進されている。今までは病院にいる高齢者を、施設や在宅で支えていかななくてはならなくなる。介護保険制度は医療保険と連動性を高めるため、重度者を重点的に支援していくことになる。ケアマネジャーは医療ニーズに 대응することができないと難しくなる。

ただ、重度者ばかりに介護保険制度が比重していくと、軽度者の地域の支援に地域差が生じ、A市では優れた高齢者サロンの資源があるが、B市には資源がないなど軽度者支援に困ることも発生する可能性がある。

最後に介護保険制度改正の詳しい情報の説明があり、ケアマネジャーに対する改正のポイント、介護医療連携と不正（無駄なサービス利

用など）をするな。の2点であった。

今回の研修では、2018年の介護保険制度改正の内容だけではなく、2025年2040年に迫り着くまでに、後期高齢者の増加、働き手の減少、介護医療の費用の膨らみを具体的に数字で現実を学ぶことができた。ケアマネジャーは介護保険だけではなく、医療、障害福祉のことも理解していかなくてはならない。2035年に向かって、今後どのように福祉を支えていくか、厳しい内容の話も多くあったが、高野氏は「ケアマネジャー一人ひとりに、今後の行く末をしっかりと考えてほしい」という強いメッセージが込められていたように感じた講演であった。



## 岩槻区 活動報告

テーマ 「情報下さい！教えてください！〜ケアプランに社会資源を位置づける〜」

開催日時 平成30年3月16日（金） 18時30分〜20時00分

開催場所 庭先カフェ いわさ喜

今年度第2回目の岩槻区ケアマネサロンは、前回に引き続き、庭先カフェいわさ喜を貸切にして開催された。参加者は16名であった。

第1回目の開催時に話し合った内容で、インフォーマルサービスについて情報がほしいとの意見があり、地域での取り組みなどについて今回のケアマネサロンで情報共有することになった。

ある新聞で掲載していたのでは、生活に必要なお手伝いを1時間500円で行なうサービスがあった。例えば電球の交換など軽微なサービスに限定。便利屋を利用した例においては、家の片付けを担当した業者が、逆に（不用品を）売ってくださいと言われたこともあったとのこと。ある業者では、利用者が負担できる金額を提示すれば、処理費用含めて提示金額までの作業を行う。

また今話題にのぼることも多い、こども食堂に利用者と参加して、笑顔で楽しい時間を過ごすことができた例を紹介。世代間交流も素晴らしいと紹介者は話していた。

近隣のスーパーでは買い物した商品を当日配達してくれるサービスもあるとのこと。

病院との連携に関する情報では、近隣の病院2ヶ所に相談員が配置されたことが報告された。

医療との連携を図るうえでは、ケアマネジャーにとつては有意義な情報である。

シニアサポートセンターの方々との情報交換では、地域にて展開している介護者サロンや認知症初期集中支援チームの活動など、実際にはどのようにつなげていくのか流れを紹介。包括的ケアでの連携が活性化されている様子がわかった。自分の利用者に必要が生じた時に、ケアマネジャーとしてどのように参加できるかをシミュレーションすることも大切である。

今後ケアマネジャーが地域のサービスで連携を取っていく上では、利用者ニーズに合わせたサービス調整はもちろん、介護を行なう家族などの支援も社会資源でのフォローが必要な時もあるため、幅広く情報を収集することが大切と感じた。また逆にケアマネジャーが必要なサービスを提案していくことがあってもよいのでは。

岩槻区ケアマネサロンでは参加メンバーが増えたことで、色々な相談ができる場になってきた。それぞれの困り事を話せるような時間を設けたり、こんな話し合いを行いたい、飛び込みの議題を受け付けられる、メンバーが参加してよかったと思えるような、ケアマネサロンを岩槻区では今後も目指していきたいと思っている。



## 施設ケアマネ研修会の報告

テーマ 「施設ケアプラン作成に関する勉強会 わかる事例検討会×センスを磨こう」

講師 神奈川県立保健福祉大学

保健福祉学部教授 峯尾武巳氏

開催日時 平成30年1月27日(土) 14時00分～16時00分

開催場所 プラザウエスト 第2セミナー室

前半30分は配布資料を参考に講義形式で、後半は参加者の所属施設別に各30分、特養、老健、有料ホームから指名された1名の事例を他の参加者が質問をすることで紐解いていくという方法で行った。

講義では、ICIDH、ICF、マズローの欲求5段階説という基礎知識を確認した。参加者各自がそれぞれの構図を描くことで、各概念の理解を深めた。

事例検討は、発表者が持参した事例の性別・年齢・介護度、入所までの経緯、疾病といった簡単な基本情報と長期目標を発表し、他の参加者2～3名が1グループとなり、他に欲しい情報を質問するという方法で行った。参加者からは、食事・性格・認知力(コミュニケーション)



といったADL情報についての質問が多く出されたが、これは、全員の元職が介護職ということに起因するものと先生は指摘した。

人を理解するには時系列で捉えることが大切である。いままでどう過ごしてきたか、一日の過ごし方はどうかを知ること。疾病や障害といった目に見える情報に着目してアセスメントしただけだが、その人がどうしてほしいのか、どうしたいのか、マズローの構図でいえば上の部分(承認、自己実現の欲求)でアセスメントすることが大切である。

それは、施設においては、生理的欲求や安全欲求は基本サービスとして保証されているはずだからである。施設のケアは所謂パッケージとして提供されるので、そのままではみんな同じケアプランになってしまう。例えば「肺炎予防」は施設全体の目標として捉え、その人の楽しみややりたいことに着目した目標を考えることが大切である。

ICFはアセスメントツールであるとわれているが、「今の生活状況を説明するためのツール」として捉え、活用すること、すでにあるケアプランを紐解いていくこと。それもひとりではな

く、カンファレンスを通じてみんなで行うこと。集団ケアの中でもできる限り個性を追求することが施設ケアマネジャーの役割であり、個別ケアを追求するためのツールがケアプランである。



アンケートには、「楽しく、集中して学ぶことができました」「施設ではケアマネは一人なので相談する人もなく心細かった」「今日のような研修をたくさんしてほしい」「もう少し長い時間研修を受けたかった。大変勉強になる内容でした」などの感想が寄せられた。また、比較的長い文章で記入された方が多く、大変好評な研修会となったことが窺えた。

### 清水さいたま市長との懇談会

平成30年3月3日 清水勇人さいたま市長をお招きして懇談会を開催いたしました。

さいたま市介護支援専門員協会からは宮本好彦会長、野崎直良顧問他役員数名と関係機関の方数名が参加いたしました。

和やかな雰囲気の中で懇談会は進み、当協会からはケアマネジャーの業務や高齢者福祉・介護の現状を清水市長にお伝えをいたしました。

清水市長からはさいたま市の高齢者の現況をお話ししていただき、大変有意義な会となりました。



## ご案内

◎平成30年度 さいたま市介護支援専門員協会「通常総会 及び 全体研修会（記念講演）」開催のご案内

開催日 平成30年5月19日（土）  
場所 さいたま共済会館 601号室（第1ホール）  
通常総会 午後1時45分～2時50分  
全体研修会 午後3時00分～4時45分  
講師 ブラザートム氏（Bro.TOM）  
（歌手・俳優・声優・司会者）  
FM NACK5 「キリン一番搾り One More Pint！」毎週金曜18：00～放送中

## 会員H

旅先では、美術館や古本屋、中古レコード店に行くことが多い。

最近遠くへ旅に出ることも減ってしまったが、近郊の街に出かける機会には、探して訪ねることにしている。

旅先の美術館で、好きな画家の展覧会などやっていたら最高だ。

福島駅からローカル私鉄に乗り換えてすぐの福島県立美術館は落ち着いた環境がよかった。静岡の街中から地方鉄道で行った静岡県立美術館はロダンの彫像が。甲府の山梨県立美術館はミレーで有名だ。岐阜県美術館はルドン目当てで行ったのだが、立体造形作品を配した庭が広大で、思わず長居した。路面電車王国、広島市の街地に建つ、ひろしま美術館は印象派のコレクションと大好きなフジタがあった。フジタといえば、企画展に出品されたので訪ねてみた、桐生の大川美術館。ここは、小さな山の中腹に立つ、小さな美術館だが、緑豊かな環境が素晴らしく、山の斜面を活かして階段状に続く、こぢんまりとした展示スペースがユニークだった。金沢21世紀美術館は斬新な設計と現代アートの収蔵で有名。無料スペースだけでもけっこう楽しめ、今や世界的な観光地だ。

旅の話題からはそれるが、美術館は併設のカフェやミュージアムショップにも素敵などころがあって楽しい。京橋のブリヂストン美術館は長期休館中が残念だが、このカフェは限定のサンドイッチがおすすめだ。六本木の国立新美術館は、ポール・ボキューズのブラッスリーが、土日のランチタイムにはすぐに席が埋まってしまう。ここは地下のショッ

プが充実しておすすめスポットだ。場所柄か、外国の方も多く見かける。いい日本土産が買えるだろう。

古本屋と中古レコ屋は下調べしてから行く。特に古本屋は個人経営が多く、中には気まぐれな店もある。倉敷でのことだが、レンタサイクルで2~30分、真夏の炎天下、地図を頼りに慣れない土地で向かった店が臨時休業で泣かされたこともあった。電話すればよかったのだ。仕方なく帰り道に立ち寄ったうどん屋で、飲んだ生ビールに救われた。

初めて入った店では何か買うようにしている。ほしいものがないことも多いが、「この値段なら聴いてみてもいいか」とか「これは珍しいものではないか？」など、何かと理由を見つけては買うのだ。それは、初めての店に対する礼儀であるとかきまえ、そして、旅のゲン担ぎのようなものでもある。その日、初めての店で買うものがないと、不思議なことに、その後もよいブツに出会わない。そういうものだ。

午前中は美術館。午後は古本、中古レコ屋めぐり。そして、夜は居酒屋だ。これが王道の過ごし方だ。そして、地方鉄道や路面電車が走っていれば、なおよろしい。故に、風光明媚な観光地や鄙びた温泉地より、地方都市を訪ねることが多くなる。

そんなことわざわざ旅先でしなくてもいい、と思われるだろうか。日常生活でもできることを、新鮮な土地で、いつものように過ごすのも旅のよいところだ。気楽さがいい。だから私は、もっぱら一人旅派だ。

## 事務局

〒331-0823 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1864-10

JS日進 さいたま市社会福祉協議会内 さいたま市介護支援専門員協会

(連絡先) 社協 地域福祉課 TEL 048-834-3133 FAX 048-835-1222

社協 浦和区事務所 TEL 048-834-3131 FAX 048-833-3199

## ホームページ

<http://www.saitamashi-keamane.jp>

さいたま市介護支援専門員協会